

会派代表質問

市民の声を真摯にお聴きし、私はそれを市政に生かしていきたいのだ!

新政ネット

石渡 登志男 議員



問 昨年10月発表の千葉県のいじめ認知件数(2017年)は過去最多。千葉県は何と全国ワースト第1位。2016年10月の文科省の発表でも千葉県のいじめ認知件数はワースト1位。野田市の児童虐待死亡事件においても文科省の生徒指導室長は子どもを第一で考えるべきであり、虐待のリスクを高めた可能性もある、今回の対応は極めて許されるものではないと言っている。そういう中において野田市と、本市の数年前にあった大網中学校のいじめ問題は何か本質が似ていないか。母親が本市教育委員会に2度も行きその苦しい現状を訴えても教育委員会管理課長は全く知らなかった。途中の段階で話をとめてしまっていた。私宛に母親から助けて欲しいというご相談があった。壮絶なるいじめによりこの生徒は自殺をしようとしたと判断し、教育委員会に行き話をしたが、ちががかない。よって大網中学校に出向き校長と2人だけで話し合いを行った。校長ですら、知らないことがあった。野田市の虐待事件と同様に、子どもを守るべき役目を担う関係機関が必死に動いてこなかったのだ。その後解決し、母親より、「どんなに些細な事でもあのひどい状況の中にいた私たちには、とても今が幸せに感じます」という嬉しい便りをいただいた。いじめ問題の解決は中々難しい。でも大人が真剣になり子どもに寄り添い、きちんとした対応をする事により解決も可能と私は確信している。どこの自治体でも同様、学校や教育委員会をはじめとする関係機関は、自分たちの保身に走ってはダメだ。守るべきものは組織や自分たちではない。子どもたち

なのだ。最後に野田市女兒のご冥福を心よりお祈りしたい。

では、本市の小中学校のいじめ件数はどうなっているのか。

答 平成29年度市内小中学校におけるいじめ認知件数は、小学校全7校合計で120件、中学校全3校で25件です。ささいな兆候であつてもいじめではないかと疑いを持ってかわり、積極的に認知し、早期対応に努めております。

いじめの認知件数はトータル145件となるが、これは氷山の一角であらう。一番大事なことは、いじめを単なる悪ふざけというこんな程度で片づけてしまうこと、これは危険だ。それにより子どもの悲鳴を感じ取ることができなくなる。いじめを認知するということはいじめ対策のスタートライン。日本全国でいじめによる子どもの自殺は年間100人を超えている。100人を超える子どもの命が一瞬にして奪われているのだ。きちんとした対応をしなくては本市でもどこでも起こり得ること。いじめから子どもを守っていくのは、学校や市教育委員会並びに私たちが議員の仕事ではないのか。本市のいじめ件数は氷山の一角、まだまだそういう子どもたちがいるはず。アンケート調査を含め、そういった子どもたちを掘り起こしながら、私たちが全力を挙げて守っていくんだという姿勢を、私は市側の皆様方にもお伝えし、次の質問に入りたい。

問 駅前歩道の屋根設置の進捗状況だが、あれから4年半、どうなっているのか。

答 これまでの協議結果を市やJRが相互に確認するとともに、課題となつてはいるJR用地の売買条件等に

ついて確認を行いました。また具体的な条件は示されず、継続協議となつております。引き続きJRとの協議を進めるとともに、今後JR側の条件や、市の厳しい財政状況踏まえながら、通路屋根の設置について見直しを含め検討してまいります。

厳しい財政状況の問題もあるだろう。でもこれは平成26年9月議会で市長が議会の場ではっきりと「設置します」と約束した内容であるのだ。しっかりとした対応をお願いしたい。26年9月議会での市長の答弁をお伝えするが、「雨天や降雪時に駅前広場利用者の皆様が安全に通行できる環境、これを整えるということは、大変重要であると認識しております。屋根の設置方法等の調査、これを今年度行った上で、屋根の設置を進めてまいります。今後も市民の皆様方が快適にご利用できる駅前広場ということをしつかりと守っていきたい」といふふうには思っています。

このように、市長自らが私の一般質問に対する答弁として言っているJRとの兼ね合いもあると思うが、できるだけ早期に工事着工できるようにお願いしたい。

関連質問

堀本孝雄 議員



問 認定こども園は全国で公・私立合わせて6160箇所、県内では150箇所余あるそうですが、本市においては、認定こども園についてどのように考えているのか。

答 昨年8月に策定した公立幼稚園保育所のあり方では、地理的条件、設置状況を踏まえ大綱、増穂、白里地区に分けて施設の再編方針を示したところであり、先ずは、白里地区に於いて認定こども園に向けた検討を行ってまいります。

進んでいるのか。

答 現在県では、その対策手法や構造化について検討中とのことであり、本市からも重視すべき項目について要望しております。県ではこれを踏まえてできるだけ早期に陸間の設置を決定する予定であり、構造決定後は地域住民への説明を行う予定です。何れにしても、本市に於いては早期の設置を要望してまいります。

問 白里海岸は、50年前までは約100m以上の砂浜幅があつたものが、今や40mにも満たない状態であり、県ではその砂浜幅40mを九十九里浜一帯に確保する基本方針を決定したようですが、どのような対策をするのか、また本市の要望はどのように反映させていくのか。

答 白里海岸の計画案については、養浜とコンクリート構造物による整備を極力控えた計画を要望している。県は当面は養浜による浸食対策を行っていき、汀線の状況を見ながら施設整備を進めるといふ計画案が示されている。市としてもこの計画案に沿った形で早期の実施を要望してまいります。

問 一刻も早く土砂の供給と砂浜の回復を望むものであります。土砂供給の要素としては、片貝港のしゅんせつ土砂2万5千立米、真亀川の2千立米、堀川の千五百立米あるそうですが、この土砂を白里海岸に沖捨てし、そして合わせてその土砂を陸上搬入して海岸に供給することによって相当な効果が期待されます。

個人質問

スマートインターチェンジのアクセス 大網街道と大網街道の交差点に信号機

前之園 孝光 議員



スマートインターチェンジが開通しました。おめでとうございます。

かねてより要望していましたがアクセス道路と大網街道の交差点に信号機が、設置されました。

問 万一の事態に対する備えは自助7、共助2、公助1だと言われています。また、これらが一体となつて機能してこそ大きな効果があるとされています。とりわけ人口減少や少子高齢化が進むことを考えれば、地域住民による共同体制をどう構築し維持していくかは、大事な課題です。そこで、大事なのは自主防災組織です。住民に最も身近な地域の防災力を推進するよう要望いたします。

答 平成31年1月1日現在、本市には116の区・自治会がございますが、そのうちの37地区で34の自主防災組織が結成されております。市の自主防災組織への支援内容として、自主防災組織結成後、1つの組織につき1回、初期消火活動や避難誘導活動、救出活動などに使用する資機材の整備に50万円を限度に補助金を交付しております。要望 地域ごとに防災計画をつくるなど「地区防災計画の作成」の普及推進について要望しました。

問 高齢者が亡くなった後、納骨など人生の締めくくりを自治体の手助けする「終活支援事業」について質問いたします。

答 自分の生い立ちや健康状態、もしものときの対応について記入ができる「大網白里市マイエンディングノート」を30年度1,000部作成いたしました。このノートは、公共施設はもちろん、地域で行っているサロンや老人クラブ、区・自治会等の健康相談や介護予防事業の際に、

希望された方に配布させていただいております。使用された方からは「家族で終活を考える機会となった」「思いをいろいろ書き残せるのでよい」などの好意的な声を伺っております。ことから、次年度も作成する方向で考えております。

問 「地域包括ケアシステム」について質問いたします。65歳以上の方々は1万5,000人位います。その中の介護を受給している方々が2,035人ということですが、総事業費につきましては、平成29年度決算では36億2,776万9,000円となつております。介護認定につきましては、平成30年3月末現在では14.4%となつております。介護サービスにより多くの家族の負担が軽減されて喜ばれていますが、介護を受けられない健康に過ごす方々を増やすことも大事です。要支援認定者の重症化を防ぎ、「健康寿命」を延ばすために地域支援事業を推進する事が重要です。

答 生活支援体制整備事業におきましては、社会福祉協議会の各支部長が中心となつて、地域に即した生活支援体制の構築に向けてスタートしております。市としましては、市民の福祉向上のために、良く連携をとりながら、よりよい実りあるものにしていくように推進して参ります。

その他、①市長の今後4年間のビジョンについて、②財政健全化対策について、③小中学校の通学路のコンクリートブロック塀等の安全対策について、④大網病院の医師の確保について、⑤市役所での手続の負担軽減について、⑥結婚支援の取り組みに等について質問、要望致します。